

岩手県金融経済概況（2020年3月）

1. 概況

県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響などから、悪化しつつある。

最終需要の動きをみると、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響から、悪化している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資、設備投資は横ばい圏内の動きとなっている。

生産は、一部に新型コロナウイルス感染症の影響がみられており、弱含んでいる。

労働需給は、引き締まった状況が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の影響がみられ始めている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響から、悪化している。足もと、サービス消費を中心に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。

百貨店売上高（全店舗ベース；2020年2月）は、5ヵ月連続で前年を下回った（前年比 Δ 4.2%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2020年2月）は、2ヵ月連続で前年を上回った（前年比+6.4%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2020年3月）は、6ヵ月連続で前年を下回った（前年比 Δ 12.6%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2020年3月）は、5ヵ月振りに前年を上回った（前年比+17.0%）。

新設住宅着工戸数（2020年2月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△27.4%）。

—— 持家（前年比△15.7%）は2ヵ月連続で前年を下回った。貸家（同△39.8%）は3ヵ月連続で前年を下回った。分譲（同△35.8%）は4ヵ月連続で前年を下回った。

民間設備投資（2020年3月短観ベース）は、2019年度（実績見込み）については前年を下回る（前年比△4.6%）見込み。また、2020年度（計画）については、前年を下回る計画（前年比△1.6%）となっている。

—— 2019年度については、製造業、非製造業ともに、一部に計画の精緻化に伴う投資額の減額などの動きがみられたことから、前回調査比減少幅を拡大した。

2020年度については、製造業では前年を上回るものの、非製造業では、前年の大口案件の反動減等がみられることから、全産業では前年を下回る計画。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2020年2月）は、12ヵ月連続で前年を下回った（前年比△20.0%）。

3. 生産動向

生産は、新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられており、弱含んでいる。この間、幅広い業種で先行きの不透明感が高まっている。

鉱工業生産指数（季節調整値；2020年2月）は、2ヵ月連続で前月を下回った（前月比△6.5%）。

—— 主要業種別にみると、化学、プラスチック製品、情報通信機械が上昇した一方、食料品、電子部品・デバイス、生産用機械が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2019/10～12月は3期連続で前期比増となった（2019/1～3月：前期比△7.1%、4～6月：同+1.2%、7～9月：同+2.3%、10～12月：同+2.7%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の影響がみられ始めている。

有効求人倍率（季節調整値；2020年3月）は、1.20倍と前月を下回った（2013年5月以降83ヵ月連続で1.00倍以上〈過去最長〉）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2020年3月）は、3ヵ月連続で前年を下回った（前年比△0.1%）。

雇用者所得（県内合計値；2020年2月）は、常用雇用指数（前年比+0.6%）、名目賃金指数（同+1.8%）が前年を上回ったことから、2ヵ月連続で前年を上回った（同+2.5%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2020年3月）は、諸雑費、教育が下落した一方、食料（外食等）、被服および履物、住居、家具・家事用品などが上昇したことから、前年を上回った（前年比+0.4%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2020年3月）は、7件、1,032百万円（前年同月；5件、285百万円）と、引き続き低水準となっている。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2020年2月）については、預金、貸出とも前年を上回った。貸出約定平均金利（2020年2月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>